

＜幡多地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果:○ 課題:◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>1 水稲と露地野菜を基幹とした水田農業の担い手育成</p> <p>《幡多地域全域》</p> <p>持続性のある水田農業を確立するため、水稲と露地野菜を基幹とした大規模経営体、またはそれを志向する農業者を対象に、規模拡大による生産性の向上と安全・安心・高品質生産を推進し、所得向上と雇用創出を図る。</p> <p>【JA高知はた】</p>		
<p>2 有機農業普及・拡大事業</p> <p>《四万十市》</p> <p>安全・安心な有機野菜による米や野菜の消費を拡大させる取組を進めることにより、地域住民の健康や農業振興・商業振興につなげ、「有機農業四万十市」の定着を目指す。</p> <p>【四万十市】</p>	<p>○有機農業の普及拡大(H21～H23)・高付加価値農業の研修(H21～H23)</p> <p>・四万十市の一般市民を対象に、H21から継続して「生産技術研修会」を開催。</p> <p>・地域雇用創造実現事業で3名を雇用し、水稲2ha・露地野菜17aの栽培を実施。</p> <p>・有機農産物流通システム構築事業(H22～H23)</p> <p>・緊急雇用創出臨時特例基金事業を活用し、宅配(一般家庭)の募集と事業PRを実施。</p> <p>◆有機農産物のさらなる認知度向上 ◆有機農産物の栽培技術の向上 ◆需要の拡大(PRと販売促進)</p>	<p>・有機野菜の宅配を継続実施</p>
<p>3 三原村農業公社を核とした農業支援システムの構築</p> <p>《三原村》</p> <p>三原村の環境を生かした中山間の農業振興策として、農業公社を核としたユズ、プロッコリーの産地化を目指す。</p> <p>【(財)三原村農業公社、三原村、JA高知はた】</p>	<p>○ユズの産地化の推進(H20～23)</p> <p>幡多管内のユズ栽培面積は、平成19年度の56haから平成23年度に79haに増加した。三原村では、水田転換畑への新植が進み、7.6haから22.1haに増加した。</p> <p>○生産量拡大と有利販売の推進(H20～23)</p> <p>青果率向上対策として、JA高知はた全域で共同選果体制が構築され、市場評価が向上した。JAはた管内のユズの生産量は、平成19年度488tから平成23年度の生産目標642tをほぼ達成できた。(うち三原村H23:112t)</p> <p>○栽培維持・発展に向けた支援システムの構築(H21～23)</p> <p>三原村農業公社が農地を集積してユズ10ha、プロッコリー1.2haの直接栽培を行い、常勤雇用6名を新たに雇用し、農作業受託・機械リース等を行うなど、中山間地域活性化のモデルケースとして期待されている。</p> <p>◆生産拡大に伴うユズ果汁過剰による加工用ユズ価格の低下、高齢者率の増加と後継者不足、新規生産者の確保、ユズ加工製品の増加による販売競争の激化などの課題がある。</p>	<p>・三原村農業公社を核とした農業支援システムの構築に向けた、関係機関でのチーム編成、課題の共有化</p> <p>・農業支援システムづくりについて、高知県緊急雇用創出臨時特例基金事業費補助金【震災等緊急雇用対応事業(18,000千円)、三原村ユズ販売拡大等事業(9,042千円)】、高知県産業振興ふるさと雇用事業費補助金(18,884千円)の実施</p>
<p>4 「若山椿」ブランド復活プロジェクト</p> <p>《黒潮町》</p> <p>古くから地域で特産品となっていた「若山椿」の産地復活を目指した、栽培拡大および加工技術向上による産地・ブランド化に取り組む。</p> <p>【黒潮町、黒潮町佐賀北部地域協議会】</p>	<p>○椿栽培の推進(H20～)</p> <p>栽培面積 H21:32a(収穫0.6t)、H22:37a(収穫1.2t)、H23:39a(収穫1.2t) (うち遊休農地利用11a)</p> <p>○当初、5年間(H20～24)の継続補助が確定していた国庫事業(200万円×5年)が、事業仕分けよりH21をもって終了、計画全体が見直しとなった。その中で、組織の身の丈に合わせた活動を続け、栽培面積も少しずつ増加している。</p> <p>○「若山椿が古文書修復に適している」として、専門分野からの発注も多く、今後に期待が持てる。</p> <p>◆活動経費の不足 ◆マンパワー不足</p>	<p>・若山椿の自生地調査</p> <p>・若山椿の歴史調査や資料作成</p> <p>・ブログの立ち上げ</p> <p>・地元小学校での総合学習実施</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
		【指標】 販売額1,500万円以上の農業経営対数 (H22:2経営体) 【目標(H27)】 10経営体
・緊急雇用:1名		【指標】 環境にやさしい農業申請面積の増加 (H22:約1,000a) 有機野菜の出荷率出荷量の増加 (H22:約30%) 【目標(H27)】 申請面積 1,500a 出荷率 50%
<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度ユズ栽培面積目標:50ha ・緊急雇用により、JA8名雇用 ・ユズ販売拡大等事業により、三原村農業公社3名雇用 ・雇用事業費補助金により、村5名+1名雇用 		【指標】 ユズ生産量 (H19:65t) (H22:74t) 栽培面積 (H19:7.6ha) (H22:22ha) 【目標(H27)】 ユズ生産量 400t 栽培面積 50ha
		【指標】 栽培面積 (H22:37a) 椿収穫量 (H22:1,232kg) 【目標(H27)】 栽培面積 60a 椿収穫量 2,900kg

＜幡多地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果:○ 課題:◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>5 弘法大師ゆかりの七立栗 特産品化計画</p> <p>《黒潮町》</p> <p>黒潮町馬荷地区で栽培されている「七立栗」の生産を拡大し町の特産品にすることで、地域の活性化と産業の創出を目指す。</p> <p>【七立栗生産組合、黒潮町】</p>	<p>○七立栗栽培の推進(H21～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出荷農家数 H21: 1戸(10a)、H22: 5戸(20a)、H23: 11戸(75.5a) <p>○当初、計画していた温泉施設については、財源の問題より困難と判断した。</p> <p>○一方、七立栗のブランド化については、栽培面積増に取り組みとともに、集落営農導入及び基幹品目としての検討が始められた点は評価・期待が持てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆活動経費の不足 ◆マンパワー不足 ◆病虫害対策 ◆栽培方法の確立 ◆耕作放棄地の開墾難 ◆単価が低い 	<p>・6/10臨時会にて、会員向けに七立栗生産の中心的存在である地元H氏による畑での剪定実践講習の実施。</p>
<p>6 有望品目への転換を含めた、大方南部地域の産地再生</p> <p>《黒潮町》</p> <p>シュッコンカスミノウ、テッポウユリの産地として知られる黒潮町南部地域において、灌漑事業の導入等による新たな花き・野菜等の生産により地域振興を目指す。</p> <p>【黒潮町、JA高知はた】</p>	<p>○シュッコンカスミノウの品質向上対策として、バケット輸送や市場性の高い品種(アルタイル、マリーベール)への移行を推進(H21～23)</p> <p>○マーケティング調査により、小売りが嗜好する品種の定着化を推進(H22)</p> <p>○新品目の栽培を推進(H21～23)</p> <p>(H23園芸年度(H22.9～H23.8)=ダリア:4戸24a、テマリソウ:3戸26a)</p> <p>(H24園芸年度(H23.9～H24.8)=ダリア:4戸57a、テマリソウ:3戸40a)</p> <p>○南部地域での点滴栽培の検討と用水対策の具体的な検討開始(H23)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆慢性的な水不足より栽培可能な品目が少なく、シュッコンカスミノウの代替品目もない。ダリア・テマリソウ・ニラ等は可能性があるが、用水対策・省水栽培技術の取組が必要である。 	<p>・まとまりのある園芸産地活性化事業による点滴実証ほの設置</p>
<p>7 森の工場・間伐の推進</p> <p>《幡多地域全域》</p> <p>意欲がある林業事業者が中心になり、一定規模のまとまりのある森林を対象に森林所有者から長期に施業を受委託することなどによって、森林の管理や施業などを集約する森林経営の団地を「森の工場」として認定し、木材を安定的に供給する産地体制を確保するとともに、地域の森林資源の充実を図るための間伐を積極的に推進する。</p> <p>【森の工場の認定を受けた事業者】</p>	<p>○H21～H23に高性能林業機械等26台導入、作業道開設155kmの整備を行い、木材生産43,353m3を行った。森林施業プランナー養成研修を支援することにより森林施業プランナー10名体制が整った。森の工場は建設業の参入を含め7工場を新設した。(23年度末確定実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆集約化の推進による森の工場の設置、基盤整備推進による木材生産性の向上、技術者の養成、事業者の経営改善 	
<p>8 バイオマスを利用した木材の乾燥施設等の導入</p> <p>《四万十市》</p> <p>木材の乾燥及び加工施設の導入による木製品の品質向上を図るとともに、樹皮や端材などの木屑を熱源としたバイオマス利用システムの構築を目指す。</p> <p>【協同組合】</p>	<p>○長年にわたっての協議により企業間の意思は統一されている</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆乾燥材での供給が早急に望まれている ◆西土佐森林組合が単独で既存制度(森林整備加速化・林業再生事業)を活用する場合、中核森林組合の承認が必要であり、また、1企業が制度活用する場合、70%以上の原木供給協定が必要となる ◆森林組合は中期経営計画に基づき経営状況を改善中である 	
<p>9 「四万十の家」と地域産ヒノキの販売の推進</p> <p>《四万十市》</p> <p>平成22年度に建築したモデルハウス「四万十の家」をPRすることで四万十ヒノキを利用した住宅建築を促進する。また、四万十ヒノキのブランド化を図り、地域内外への販売を促進する。</p> <p>【四万十市】</p>	<p>○H23.4月よりモデルハウス利用開始、当初目標以上の利用状況であり、今後、林業関連事業者の学習会場利用や一般利用等、より積極的な地域産ヒノキのPRが可能となった。</p> <p>○4市町村(四万十市、三原村、四万十町、中土佐町)による推進協議会の発足により、地域産ヒノキのブランド化に向けて組織体制を強化した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆各市町村の取組みを連携させる必要がある。 	<p>・市産材利用促進事業の実施</p> <p>・ふるさと雇用によりモデルハウス管理者1名雇用</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる、プラスの変化を示すこと>	指標・目標
		【指標】 栽培面積 (H19: 10a) (H22: 20a) 出荷量 (H22: 6,120本) 【目標(H27)】 栽培面積 140a 出荷量 35,000本
・シュッコンカスミノウ1戸、ニラ1戸		【指標】 花き栽培面積 (H20園芸年度24.8ha) (H23園芸年度20ha) 野菜(ニラ)栽培面積 (H23園芸年度1.4ha) 【目標(H27)】 花き栽培面積 15ha 野菜栽培面積 6ha
		【指標】 森の工場の木材生産量 (H22 13,871m3) 【目標(H27)】 20,000m3
		【指標】 乾燥材生産量 【目標(H27)】 900m3
・受付件数 5件(5/31現在)		【指標】 四万十の家 着工戸数 【目標(H27)】 30戸

＜幡多地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果:○ 課題:◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>10 町内の持続可能な山林資源を活用した製炭事業</p> <p>《大月町》</p> <p>町内の最高級のウバメガシや山林資源を活用して、古くから行われていた土佐備長炭の復活など、製炭の産業化を目指す。</p> <p>【大月町備長炭生産組合】</p>	<p>○H23産業振興総合補助金を活用し、生産窯を2基(10月、3月)設置。 ○H23生産者3名が備長炭生産に従事。 ○H23室戸における研修を5名が終了。 ◆生産規模が少ない。 ◆収益の多様化、チャネルの多角化 ◆当面の自主財源不足。(将来は生産規模拡大による手数料収入で十分に賄われる) ◆将来に渡って安定的な原木の確保。</p>	<p>・H24県ふるさと雇用事業で事務局1名を雇用 (総事業費:5,178千円) ・国緊急雇用事業で研修生2名を雇用 (総事業費:8,984千円) ・H24県産業振興総合補助採択 (補助額:12,174千円)</p>
<p>11 地域活性化のための魚加工・販売体制の強化・推進</p> <p>《宿毛市》</p> <p>宿毛市片島地区に施設を整備し、水産加工物製造・販売を展開することで、漁業者所得向上や、雇用創出、地産地消・外商を進めていく。</p> <p>【すくも湾漁業協同組合】</p>	<p>○H21産業振興総合補助金を活用し、加工施設・冷凍冷蔵施設・保冷運搬車両を整備、同年10月から製造・販売スタート。 ○H22は鮮魚フィレ12t、冷凍キビナゴ3.6t、H23は鮮魚フィレ約20t、冷凍キビナゴ約7tと、前年を上回る成果。 ○販売先として、学校給食や病院関係を中心に積極的な営業活動を行った結果、H21末の11社からH23年10末時点で35社と、大幅に増加。学校や病院の栄養士からの評判も大変良く、今後の成長に期待。 ◆原魚の安定調達による作業効率の向上、増産、販路拡大</p>	<p>・ふるさと雇用再生特別交付金事業(13,944千円)の導入 ・販売先の開拓(高知県内の病院や学校給食、高知県外の学校給食)</p>
<p>12 宿毛湾を中心とする地域水産物の流通・加工体制の推進</p> <p>《宿毛市》</p> <p>民間事業者による宿毛湾の魚の利用促進・消費拡大及び地元雇用の創出を目指す。</p> <p>【株式会社ピアサーティー】</p>	<p>○H22産業振興総合補助金を活用し、施設整備。 ○H22売上高は1.4億円と、ほぼ計画に近い実績となった。 ○H23は震災の影響等もあり、計画を下回る見込みであるが、経営は安定している。 ○施設の規模拡大により衛生管理面の向上とあわせて、贈答用商品の製造や刺身用食材の提供が可能。 ◆雇用の確保(募集に対する応募が少ない)</p>	<p>・贈答用粕漬けセットの販売開始</p>
<p>13 民間企業との連携による水産物の販路拡大</p> <p>《宿毛市・大月町》</p> <p>漁協・民間会社連携による前処理加工施設を漁協市場付近に整備し、地元水産物の付加価値向上と販路拡大に向けた体制づくりに取り組む。</p> <p>【すくも湾漁業協同組合】</p>	<p>○H22産業振興総合補助金を活用し、加工施設(約120坪)・冷凍冷蔵庫・フィレマシン・真空包装機等を整備。震災の影響でH23.4月下旬から稼働。主にアジフィレを製造し、首都圏の飲食企業へ出荷中。品質面での評価は高い。 ○H24年3月現在9名の雇用。稼働1年目であり、加工技術向上に努めているほか、衛生講習受講、管理マニュアル作成、各種点検・記録付けの励行等従業員教育が図られている。 ○一方で、需要に即した原魚の調達方法や商品生産についても検討中。 ◆加工原魚の安定調達と作業効率の向上、売上拡大 ◆衛生管理体制の構築</p>	<p>・原魚調達に関し、他地区における漁獲情報の提供を実施</p>
<p>14 宿毛近海の水産資源を活用した地域ブランド確立・推進事業</p> <p>《宿毛市》</p> <p>ブリやカツオ等、宿毛近海で獲れる魚を活用し、消費者ニーズに基づく商品開発・生産体制充実・販売促進に取り組むことで、地域ブランド確立および原材料そのものの付加価値化を図る。</p> <p>【株式会社 沖の島水産】</p>	<p>○H22年度に、県が主催する「弥太郎！商人塾」の玉沖クラスに参加し「ぶりかけ」を開発。 ○H23年度は、引き続き県が主催する「弥太郎！商人塾」の臼井クラスに参加、また県ステップアップ事業を導入し、急速冷凍庫の整備及び商品パッケージデザイン、販売促進に取り組むなど、地域産の魚のブランド化・優位販売の取り組みの実施。 ◆鮮魚だけでなく広く市場を広げる。 ◆通年販売可能な体制づくり。 ◆消費者ニーズに合わせた新商品の開発や現状商品の見直し。</p>	<p>・県内外への催事等への出店による販促活動(販路拡大)の実施。</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと>	指標・目標
<ul style="list-style-type: none"> ・生産窯は3基中1基稼働。(残る2基については、メンテナンス及び立ち上げ中) ・ふるさと、緊急雇用で3名雇用 ・3名が生産に従事 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月 生産量 2.4t、売上 673千円 ・5月 生産量 2.0t 売上 536千円 ・大月町への経済波及効果 ・原木代として町在住の山主及び山師に4月、5月で合計179千円を還元。 	<p>【指標】 備長炭販売量 生産窯 生産者</p> <p>【目標(H27)】 販売量 240t 生産窯 20基 生産者 20人</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・加工及び販売員4名の雇用継続 ・製造量(H24.4～H24.5) <ul style="list-style-type: none"> ・凍結フィレ2.03t、キピナゴバラ凍結0.5トン ・県外への販売額の増加(4～5月実績:778千円、対前年比:316%) (全体的な販売額は前年と変わらず(4～5月実績:4,473千円、対前年比:100%)) 	<ul style="list-style-type: none"> ・入札に参加することにより、すくも湾漁協に水揚げされる魚価の下支えに貢献 ・県外への販売額の増加 	<p>【指標】冷凍フィレ、冷凍キピナゴ生産量(H22) (冷凍フィレ12.3t) (冷凍キピナゴ3.6t)</p> <p>【目標(H27)】 冷凍フィレ 30t 冷凍キピナゴ 15t</p>
		<p>【指標】売上高(H22:1.4億円)</p> <p>【目標(H27)】 2.7億円</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・すくも湾漁協等から当該民間会社への原魚供給高(4.5月分)3.5百万円 【達成率3.7%、3.5百万円/94百万円(H24目標値)】 	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用10名(継続雇用) 	<p>【指標】 原魚供給高</p> <p>【目標(H27)】 1.19億円</p>
		<p>【指標】 売上高(H22 8,000千円)</p> <p>【目標(H27)】 11,700千円</p>

＜幡多地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果:○ 課題:◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>15 サメ漁業復活に向けた取組</p> <p>《土佐清水市》</p> <p>サメ肉の加工品の開発と販路開拓により、サメ漁業が成立する浜値で取引される仕組みを構築するとともに、サメによる漁業被害の軽減を図る。</p> <p>【土佐清水市水産振興協議会】</p>	<p>○漁獲されたサメを安定した価格で買い上げ、加工商品とすることで、サメ漁業復活のきっかけづくりとなった。</p> <p>○H22産業振興総合補助金を活用し、商品開発を継続。サメ肉で主にペットフードを開発して、従来販売されている商品に比べ、宗田節加工場で加工することによってアンモニア臭が抑えられ、ペットの嗜好性が非常に高いものに仕上がった。</p> <p>○ペットフードについて、大手ペット用品業者との商談の結果、商品開発(ネーミング及びパッケージ)・販売の協力が得られ、9月の展示・商談会以降、約6000パックの注文があり、今後の販売増に期待が持てる。</p> <p>◆原材料の確保 ◆製造ラインのコスト削減 ◆ペットフードの安定した販売量の確保 ◆取組全体のコーディネータ役の育成</p>	<p>・高知アンテナショップ「まるごと高知」への出品</p> <p>・関係者とのペットフード製造ラインのコスト削減協議</p>
<p>16 宗田節の販路拡大に向けた取組</p> <p>《土佐清水市》</p> <p>宗田節加工業は、蕎麦屋等の業務用需要に支えられてきたが、食の多様化等により需要が減少しているため、一般消費者を直接ターゲットにした商品開発や宗田節のPR等を展開し、消費の拡大を図る。</p> <p>【宗田節をもっと知ってもらいたい委員会、土佐清水市】</p>	<p>○宗田節をもっと知ってもらいたい委員会(H22設立:以下「宗田節委員会」)が、県内を中心とした宗田節のPR活動を展開し、宗田節の認知度が一定向上した。</p> <p>○(株)土佐清水元気プロジェクト(以下「元気プロ」)が新商品の開発に取り組み、2月までに4品目が完成し、販売を開始した。</p> <p>◆宗田節新商品を活用した県外の認知度向上に向けた情報発信 ◆宗田節新商品の販売拡大</p>	<p>・宗田節をもっと知ってもらいたい委員会で事業計画や具体的な実施内容を検討(1回)</p> <p>・大阪、東京などへのフェアへ出展(のべ32日)</p> <p>・販路開拓を継続</p> <p>・新商品の開発に着手</p>
<p>17 “川辺の暮らし”を支える豊かな四万十川再生プラン</p> <p>《四万十市》</p> <p>四万十川の恵みを支える汽水域を中心とした河川環境や漁業資源を継続的にモニタリングしながら、流域住民が四万十川の漁業資源を持続的に利用できるようなマネジメントできる枠組みを作っていく。</p> <p>あわせて、アユやアオノリをはじめ、四万十川の恵みを地域外に付加価値を付けて売り出す方策を探っていく、“川辺の暮らし”が永続的に営まれるようなかつての豊かな四万十川の再生を目指す。</p> <p>【四万十市、四万十市高知大学連携事業推進会議、四万十川下流漁業協同組合】</p>	<p>○アユやスジアオノリの枯渇原因については、多くの要因が言われてきたが、今回、四万十市と高知大学が連携して科学的な原因究明に乗り出し、「汽水域シンポジウム」や連携事業の報告会を介して、関係機関や地域住民と情報交換を行う事で、徐々にではあるが原因究明や資源復活に向けての協力体制が出来つつある。</p> <p>○H21年より試験的にはじめた下流漁協のアオノリやアオサノリの製造・販売事業について、H23年10月に六次産業化法に基づく総合化事業計画の二次認定を受け、取組みにはずみがついた。</p> <p>◆アユやスジアオノリの天然資源が長期低落傾向にあり、その枯渇原因の究明と有効な対策が急務である。</p> <p>◆漁業関係者との情報共有の強化</p>	<p>・四万十川の鮎遡上調査</p> <p>・四万十川スジアオノリ・アオサノリに関して、総合化事業計画に基づき、6次産業化支援事業補助金応募(販路開拓支援費に関する補助)</p>
<p>18 キビナゴ加工商品の生産体制強化</p> <p>《大月町》</p> <p>大月町の地域資源の一つであるキビナゴを活用した商品加工体制の基盤強化を図るとともに、大月町道の駅等との連携による県内外の販売促進活動をおこなう。このことにより、キビナゴの消費拡大、雇用拡大、連携先の売上増等につなげる。</p> <p>【八重丸水産】</p>	<p>○加工場の改修、攪拌機整備(H23)</p> <p>○ゆず味の商品化</p> <p>○まるごと高知でテストマーケティング実施</p> <p>○龍馬効果やまるごと高知効果等もあり、きびなごケンピが好調</p> <p>○平成23年きびなごケンピ販売袋数109千袋(前年比205%)</p> <p>○平成23年度高知県地場産業奨励賞受賞</p> <p>◆キビナゴ原魚の確保が、資本力のある買い手の登場により、厳しくなっている。</p> <p>◆生産に追われ、販促営業ができていない。</p>	<p>・6/21 産振総合補助金交付決定(総事業費2,376千円)</p> <p>・新商品開発</p>
<p>19 大月町種苗生産施設活用による県内産養殖種苗のシェア拡大</p> <p>《大月町》</p> <p>大月町種苗生産施設の県内民間事業者による活用を図り、養殖用種苗としてのマダイ・シマアジの増産による市場シェアの拡大、カンパチ等新魚種の生産技術確立によるビジネスチャンスの拡大を目指す。</p> <p>【大月町、(株)山崎技研】</p>		<p>・産振補助事業を導入(総事業費13,199千円、県補助金8,799千円)</p> <p>・事業着手(アンカー制作工事契約(6/12))</p> <p>・水産試験場からノコギリガザミの親ガニ搬入</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる、プラスの変化を示すこと>	指標・目標
		【指標】年間のサメ漁獲量 (H22: 1.4t) 【目標(H27)】10t
<ul style="list-style-type: none"> ・宗田節商品の認知度が向上し取引先が徐々に拡大 ・新商品4アイテムの売り上げ: 130万円 ・フェアでの売り上げ: 25万円 ・販路開拓(取引先の増加): 5社 		【指標】宗田節新商品の売り上げ 【目標(H27)】 2,700万円
<ul style="list-style-type: none"> ・遡上調査の結果、下流(口屋内)から上流(梶原川合流点)までの広い範囲で天然アユの遡上が確認された。 		【指標】スジアオノリ、アオサノリの漁協 販売金額 (H22: 49万円) 【目標(H27)】 625万円
<ul style="list-style-type: none"> ・新規取引先2社(良品計画、関東の居酒屋) ・2名雇用(予定) (1名午前パートタイム6月上旬より雇用、1名午後パートタイム7月2日より雇用予定) ・きびなごケンピ(塩麴)の商品化 	<ul style="list-style-type: none"> ・1月～5月の販売袋数47,995袋 月平均約9,600袋(前年度月平均9,100袋) 	【指標】きびなごケンピの販売袋数 (H22 5.3万袋) 【目標(H27)】 14.2万袋
<ul style="list-style-type: none"> ・臨時職員3名雇用(H24～) 		【指標】マダイ、シマアジ種苗生産尾数 【目標(H27)】 マダイ 100万尾 シマアジ 50万尾

＜幡多地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果:○ 課題:◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>20 直七の生産、加工、販売の促進</p> <p>《宿毛市》</p> <p>地元柑橘の一種である直七をはじめとした地域農産物の加工・販売を推進することで、雇用創出、農家所得向上、地域活性化を図る。</p> <p>【直七生産組合、直七の里(株)】</p>	<p>○生産組合の設立(H21)</p> <p>○搾汁施設等の整備(H22:産業振興推進総合支援事業)</p> <p>○新商品の開発、商品パッケージの見直し(H22～23)</p> <p>・直七商品化によるブランド化推進によって、直七の生産量も果実ベースで、H20:13t、H22:21t、H23:36tと順調に増加している。</p> <p>◆生産拡大に向けた取組</p> <p>◆新商品の開発</p> <p>◆販路の拡大</p> <p>◆商品の製造</p>	<p>・ふるさと雇用再生特別基金事業の活用。(事業費:3,089千円)</p>
<p>21 地域の素材を活用した「おいしいもの」づくり</p> <p>《宿毛市》</p> <p>地域の特産である柑橘類や焼酎等を活用した新たなスイーツづくりをはじめ、宿毛湾で獲れた魚や牛肉、豚肉を活用した商品開発や生産拡大のための施設整備を行うことにより、地域生産者の所得向上を目指す。</p> <p>【有限会社 与力、幡多美味工房】</p>	<p>○商品製造施設整備(H23:創業支援助成金事業)</p> <p>○新商品の開発(H23:農商工連携事業)</p> <p>○販路の開拓(H23)</p> <p>○雇用の確保(H23:創業支援助成金事業)</p> <p>◆新商品の開発</p> <p>◆販路拡大</p>	<p>・量販店での催事への参加等による販路の拡大。</p>
<p>22 土佐清水市地域再生計画(大岐地区等の開発計画)</p> <p>《土佐清水市》</p> <p>地域資源としての「食」の再生・活性化を官民協働のもと、地域が一体となって実施するとともに、大岐・三岐地区開発による施設整備等への取組と併せて、雇用の創出と地域の再生を推進する。</p> <p>【土佐食(株)、土佐清水市】</p>	<p>○原魚取扱量及び販売額も順調に成果を上げており、また、雇用についても十分に成果を出している。(～23)</p> <p>○産業振興総合補助金を活用し、機器等を導入したことで、ペットフード安全法改正に適応でき、かつ新商品開発も可能となった。(H22～23)</p> <p>◆売上全体の1割程度に留まっている食品部門の販売拡大。</p>	<p>・H23.3.21より高温高圧調理殺菌装置2基及び液充填式自動真空包装機2基の稼働15ヶ月継続。(H22産振総合補助金導入機器)</p>
<p>23 地域資源を統括したプログラム構築によるしみずの元気再生事業</p> <p>《土佐清水市》</p> <p>大岐地区に整備される加工施設に生産者が参画できる仕組みづくりや加工された商品を市内外の市場に流通及び販売する仕組みを構築する。また、加工品の一般消費者向けの個別配送、海外への販路拡大など、地域資源を活かした経済の活性化を推進する。</p> <p>【(株)土佐清水元気プロジェクト、土佐清水市】</p>	<p>○産業振興総合補助金を活用し、農産物の集出荷システムを構築。農業者の所得向上や、水産物の冷凍事業を行うことでの漁業者の所得向上にもつながっている。(H21～23)</p> <p>○特産品の開発と統一ブランド作りでは、約30種類の商品を販売。地元直営レストランでも提供することで、地産地消の取組が前進。また、県外(大阪)にも直営店をオープンし、地産外商につながっている。(H22～23)</p> <p>◆売れ筋商品の(開発を含めた)販売拡大。</p> <p>◆直営店等の経営安定。</p> <p>◆集荷農産物の品質向上。</p> <p>◆加工用農産物の契約栽培の推進。</p> <p>◆付加価値農産物の生産。</p> <p>◆えさ事業の推進。</p>	<p>・直営レストラン運営27ヶ月継続。(海の駅改修工事に伴い、H23.1.11～H23.3.31までの間、一時休業)</p> <p>・県内外催事等での販促PR活動。(東京都:1回、大阪府:1回、県内:2回)</p> <p>・市内外イベントにて出店。(市内:1回)</p> <p>・農商工連携事業化支援事業費助成金:1,800千円(事業費:2,700千円)</p>
<p>24 土佐清水知的財産産業化事業</p> <p>《土佐清水市》</p> <p>土佐清水市独自の自治体向けコンピューターソフトを他の自治体に販売するとともに、新たなソフト制作やメンテナンス等を行える人材を育成し、地域内所得の向上、雇用創出、ならびに各種産業振興への波及効果を目指す。</p> <p>【(株)土佐清水元気プロジェクト、土佐清水市】</p>		

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる、プラスの変化を示すこと>	指標・目標
・営業職員の1名雇用。(流通業経験者)		【指標】 直七果実生産量 (H19:4t) (H22:21t) 【目標(H27)】 100t
・ハレノヒプリン、2012モンドセレクション銅賞受賞 ・プリン販売数 8,200個(4月～6月)		【指標】 新商品の開発 【目標(H27)】 87アイテム
・原魚取扱量:(前(H23)年度比)約3%増 ・食品の販路拡大:(6月末累計)10店舗増 [全体:303店舗(四国内5割、四国外5割)]	・新規雇用者:(6月末累計)5人 [雇用者全体:196人] ・全体売上額:(H23実績)約14.76億円 [内訳:食品1割、ペット9割] →(H24見込み)約15.2億円	【指標】 雇用者(臨時・パートを含む) (H19:124人) (H22:170人) 地元水産物の活用 (H19:2,079t) (H22:2,580t) 売上額 (H22:13.6億円) 【目標(H27)】 200人 2,800t 15億円
・販路拡大:(6月末累計)新規取引業者6社	・集出荷の登録農家数:148戸 (昨年度(H23)と同じ) ・下ノ加江冷凍施設利用漁業者数:54人 (昨年度(H23)と同じ) ・下ノ加江冷凍施設収入: (H23実績)約57百万円 →(H24見込み)約55百万円 ・新規雇用者:(6月末累計)3人 [雇用者全体:55人] ・全体売上額:(H23実績)約1.32億円 →(H24見込み)約1.38億円	【指標】 雇用者(臨時・パートを含む) (H22:55人) 地元農産物等の活用 (H22:86t) 売上額 (H22:1.18億円) 【目標(H27)】 70人 100t 2.5億円
		【指標】 雇用者(臨時・パートを含む)、システム開発 【目標(H27)】 5人 20種類

＜幡多地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果:○ 課題:◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>25 地元農産物を使った商品開発事業 《四万十市》</p> <p>農業と製造業が連携し、相互のノウハウを活かした新商品を開発・販売することにより、地産地消・外商および地域の活性化を推進する。</p> <p>【四万十市】</p>	<p>・商品開発・販売(H22～) ○市農商工連携支援及び県ステップアップ事業により、事業者の要望やレベルに応じた支援の結果、4プロジェクト、8アイテムの新商品が完成・販売中。それぞれの販促活動により、都市部の販路獲得という成果も得られている。 ○実績から得られた経験を活かした新たな商品開発のほか、各プロジェクト事業者間相互の情報交換やアドバイス、ネットワークも構築されつつある。 ◆商品PRと販路拡大(地域内外への販売戦略) ◆生産体制の確立(加工設備の高度化、原材料の確保) ◆新規連携の掘り起こし</p>	<p>・検討チーム会開催3回 ・高知空港ほか各種イベントでの販促活動合計6回実施</p>
<p>26 「いちじょこさん市場」を拠点とした中心市街地活性化の推進 《四万十市》</p> <p>四万十市一条通商店街のスーパー跡地を利用して整備された「いちじょこさん市場」を拠点に、地元の素材を活用した食育の啓発・地産地消の交流拠点として、商店街の活性化を図る。</p> <p>【まちづくり四万十(株)】</p>	<p>○四万十市中心市街地活性化の一環として、地産地消を推進する「食育プラザ」開店(H21.9～) ・「中小企業基盤整備機構」の支援を受け、集荷・販売・経営全般の改善(H21～H23) ・H23産業振興総合補助金を活用し、店舗内外装の全面改修。 総菜部門を追加し、施設名称を「いちじょこさん市場」に変更してH23.9.2「グランドオープン」。販売額の向上と経営安定に取り組んでいる。 雇用目標2名に対し、常勤2名・パート5名の計7名を雇用。 ◆:1. 目標販売額の達成 2. 集荷業務の継続 3. 催事、交流スペースの有効活用 4. 宅配業務の実施</p>	<p>・集荷業務の周知 ・惣菜の充実 150～200(H23は100前後)</p>
<p>27 栗からはじまる西土佐地産外商プロジェクト 《四万十市》</p> <p>西土佐地区の栗園再生に向け、「より高く、より多く売るしくみ」と「栽培しやすい環境づくり」を平行して取り組むことで、地域内外を巻き込んだ新しい地域ビジネスを目指す。</p> <p>【(株)しまんと美野里、四万十川を良くする会、四万十市、西土佐商工会】</p>	<p>○H21「(株)しまんと美野里」設立。H22産業振興総合補助金を活用し、加工施設、氷感庫(凍らせない冷凍保存庫)を導入し、H23.1月より稼働開始。 ○栗栽培支援として、H23.9月に支援組織「四万十川を良くする会」を設立。 ◆前年度をふまえた全体計画の策定と、受注～原料確保～加工～販売等、各作業工程に見合った体制の確立。</p>	<p>・ふるさと雇用活用(H24.4.1～H25.3.31) ・販促活動(春季の集中的な営業) ・栽培技術合同研修(定例会)の開催</p>
<p>28 西土佐拠点ビジネス推進事業(売出し西土佐プロジェクト) 《四万十市》</p> <p>各種団体や地域産業従事者など多様な人材・組織が連携し、地域産品・加工品の開発・販売、体験交流推進、情報発信、施設整備等を行い、幡多地域の北の玄関口としての総合発信拠点を作り、地域の活性化を目指す。</p> <p>【四万十市、西土佐商工会、地域事業者等】</p>		<p>・緊急雇用事業(4/2～) ・西土佐地域宿泊施設利用者アンケート</p>
<p>29 拠点ビジネスの推進(大月町まるごと販売事業) 《大月町》</p> <p>ふれあいパーク大月を拠点に、特色ある地域資源を活用した拠点ビジネスモデルの構築に向けた事業展開を図る。</p> <p>【(財)大月町ふるさと振興公社】</p>	<p>○新商品開発(H21～22):H21産業振興総合補助金を活用し、加工場を整備。事業着手から2年間で13アイテムを商品化。ひがしやま関連商品、へらすし、塩麴漬など、売れ筋商品が出てきている。 ○販路拡大(H21～22):H21、22産業振興総合補助金を活用し、インターネット通販、カタログ販売の仕組みづくりなどにより、販促活動を充実・強化。大手百貨店や生協など県外での販売も拡大。所得向上につながっている。 ○道の駅の施設改修(H22):H22産業振興総合補助金を活用し、夏季の生鮮食品の鮮度保持用の施設を改修。道の駅のにぎわいづくりにもつながっている。 ◆売れ筋商品の生産体制の充実(地域での仕組みづくり、加工場の充実など) ◆将来を見据えた、販売戦略づくり ◆道の駅のにぎわいづくり継続</p>	<p>・プレハブ冷凍庫、液体充填機の導入(リース)</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる、プラスの変化を示すこと>	指標・目標
		【指標】 新商品の開発 (H22:7アイテム) 【目標】 15アイテム
<ul style="list-style-type: none"> ・集荷者数の増 (H23.5月:61名→H24.5月:69名=8名増) ・出荷者数の増 (H23.5月:342名→H24.5月:412名=70名増)(H23,24とも8地区) ・緊急雇用で2名の雇用 (H23:8名体制→H24:10名体制) 		【指標】 雇用者数 (H22:常勤2名) (H22:パート5名) 【目標(H27)】 常勤 3名 パート 7名
<ul style="list-style-type: none"> ・雇用:1.33名 ・商品受注数:約4t(5月末現在) 		【指標】 菓加工品製造量 (H22:1.5t) 原材料(生栗)の仕入量 (H22:2.5t) 【目標(H27)】 製造量 8t 仕入量 12t
<ul style="list-style-type: none"> ・雇用2名 ・アンケート66枚、28顧客名簿(5末現在) 		【指標】 商品数 (H22:6商品) 雇用者数 (H22:パート2人) 【目標(H27)】 14商品 正規2名+α
<ul style="list-style-type: none"> ・塩麴の商品化(1パック160g) 		【指標】 ふれあいパーク大月売上額 (H19:1.38億円) (H22:1.69億円) 【目標(H27)】 2.5億円

＜幡多地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果：○ 課題：◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>30 苺を核とした6次産業化</p> <p>《大月町》</p> <p>大月町の新しい加工品として注目されている苺水りの販売拡大および新商品開発により、苺を大月町の新しい特産品として育成し、生産～加工～販売の一貫体制の構築を目指す。 【農業生産法人 苺水り本舗株式会社】</p>	<p>○H22産振総合補助金を活用し、販促活動に取り組んだ結果、販売店舗数も120店舗となり、雑誌やメディアで取り上げられる機会も多くなっており、地域を代表する企業となりつつある。</p> <p>○ご当地氷りの開発(シークワサー、みかん、ゆず)</p> <p>○苺のリキュールへの苺の提供(四万十市の藤娘酒造)</p> <p>○3種類のハーブティーの商品化</p> <p>◆販路開拓</p> <p>◆苺の収量拡大</p> <p>◆生産施設の拡大</p>	<p>・県外を中心として丁寧な営業活動を展開(新規開拓先26件)</p>
<p>31 月光桜からはじまる「牧野富太郎のみち」づくり</p> <p>《大月町》</p> <p>地域資源のひとつである牧野富太郎の足跡を活かし、観光振興を図るとともに、牧野富太郎や植物に関連した商品開発に取り組み、モノづくりによる起業や地域活性化を目指す。</p> <p>【大月町アウトソーシング研究会、四万十かいどう推進協議会大月支部】</p>	<p>○商品開発(コースターやクッキー)や展示会参加等の販路拡大(H23)</p> <p>○各種観光イベントの実施(H23)</p> <p>◆商品づくりの方向性の検討(通年売れる商品づくりと既存商品のブラッシュアップ)</p> <p>◆受け入れ側の人づくり、人集め</p> <p>◆地域イベントとしての定着</p> <p>◆資金の確保については全体にわたる課題</p>	<p>・緊急雇用「牧野の里づくり」事業導入(主体:大月町商工会)</p> <p>・産振アドバイザー事業の導入(予定)2件(ギフトラッピング講習、効果的なチラシづくり)</p>
<p>32 黒潮印の商品開発</p> <p>《黒潮町》</p> <p>天日塩、黒砂糖など、黒潮町の安全で質の高い基本調味料と地域資源とを組み合わせることによって、付加価値の高い農林水産加工商品を開発する。また遊休農地を活用したサトウキビ等の栽培、企業への安定供給や加工による商品化などを進め、地域の雇用の場の創出と所得の向上を図る。</p> <p>【黒潮町・黒潮町特産品開発推進協議会】</p>	<p>○H22産振総合補助金を活用し加工場を整備。23年度より、かりんとうを本格販売。ラッキョウ漬は県内大手スーパーでの販売開始など成果が出始めた。また、ふるさと雇用による職員増等により、H23売上実績6,658千円と対前年度比78.6%増(H22:3,727千円)。新たな地域素材を使った商品開発依頼や、加工場利用の相談等、黒潮町の食品加工の核として認知されつつある。</p> <p>◆より効率的な生産体制と設備の充実</p> <p>◆主力商品である黒糖、ラッキョウ漬の生産量拡大</p> <p>◆食品加工に対する専門知識の習得</p> <p>◆運営組織の強化</p> <p>◆獲得利益率の高い販路の開拓</p>	<p>・商品の企画、開発から販売までを支援する町単独補助事業の創設</p> <p>・黒潮印ブランド認証制度の制定</p> <p>・すなびてんぽ(e-コマース)の開設(6月21日)</p>
<p>33 カツオ文化のまちづくり事業</p> <p>《黒潮町》</p> <p>日本一のカツオ漁獲高を誇るカツオ一本釣り船団を有する黒潮町佐賀地域において、カツオを使った漁師町ならではの味の提供、新商品開発、PR等の取組を進めることによって、「カツオ文化のまち」としてのブランド化を図り、所得の向上につなげる。</p> <p>【黒潮町商工会、黒潮町、高知県漁協】</p>	<p>○カツオ新商品の開発およびPR強化(H21～)</p> <p>○マリンエコラベル認証取得(H23)</p> <p>○黒潮一番館の施設改修(H22)および通年営業化(H23、3～)</p> <p>・産振総合補助により、商品開発、施設拡充を、水産関連事業により、活餌支援、水揚増支援、PR強化等に取り組んだ結果、コンビニでのタタキ贈答セットやグルメサイトへの掲載、黒潮一番館通年営業化等、「カツオのまち土佐佐賀」の認知度向上にむけて着実に進んでいる。</p> <p>◆黒潮一番館のさらなる活用方法</p> <p>◆もどりカツオ祭の継続開催・規模拡大</p> <p>◆「日戻りカツオ」の活用方法(観光との連携)</p>	<p>・水揚奨励交付金制度創設(4月～)(事業費:5,000千円)</p> <p>・県内外催事等での販促PR活動(岡山県 1回)</p> <p>・町内外イベントにて出店(町内 1回)</p>
<p>34 佐賀地区の地域資源を活用した拠点ビジネスの推進</p> <p>《黒潮町》</p> <p>地元の魚介類や農産物を使ったレストランや、農林水産物加工品の直販、幡多地域の観光などの情報発信機能を有する施設を黒潮町佐賀地区に整備し、地域が主体的に運営することで、地域の魅力の発掘・発信や消費の拡大、交流人口の拡大を図る。</p> <p>【黒潮町】</p>		<p>・道の駅建設予定地の用地買収完了(5月末) 約6,800㎡</p>

アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じる、プラスの変化を示すこと〉	指標・目標
<p>・新商品、抹茶氷り(抹茶パウダーを氷に入れたもの)の開発</p>		<p>【指標】 毎氷り販売 (H22:4,409万円) 新商品販売 (H22:1.2万円)</p> <p>【目標(H27)】 毎氷り販売 7,000万円 新商品販売 300万円</p>
<p>・緊急雇用事業により2名の雇用</p>	<p>・4～6月の観光客受け入れ計557名</p>	<p>【指標】 商品数(H22:197アイテム) 販売目標(H22:125万円) 観光客受入数(H22:444人)</p> <p>【目標(H27)】 317アイテム 400万円 1,000人</p>
		<p>【指標】特産協売上 (H19 107万円) (H22 430万円) サトウキビ栽培面積 (H19 250a) (H22 270a) 体験者数</p> <p>【目標(H27)】 売上 3,000万円 栽培面積 350a 体験者数 500人</p>
<p>・水揚奨励交付金活用実績(4～6月末) 約2,634千円(78件)</p>	<p>・カツオ一本釣船水揚実績(H24.4～6.11) 量(kg) 水揚高(円) 水揚隻数(隻) 444,309kg 227,807,420円 144隻</p>	<p>【指標】交流人口 (H19:8,700人) (H22:12,000人)</p> <p>【目標(H27)】 16,000人</p>
		<p>【指標】雇用者数</p> <p>【目標(H27)】 正規 1名 パート 7名</p>

＜幡多地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果:○ 課題:◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>35 水産物加工施設整備事業</p> <p>《黒潮町》</p> <p>これまで以上の衛生管理・品質管理が可能で、生産拡大が図れる水産物加工施設を整備することにより、さらなる販売拡大を目指す。それにより、地域内の漁業者の所得拡大を図る。あわせて、生産従事者の技術力向上、営業面での充実を行い、地域での雇用を拡大する。</p> <p>【(有)土佐佐賀産直出荷組合】</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・産振ステップアップ補助金交付決定(6/1～事業開始) ・チアアップ!ニッポンの"食"展(6/6～6/11)へ参加 ・ホームページのリニューアル ・地域産業資源活用事業計画(経済産業省)に認定(H24.6.20付)。 →昨年からの試作開発を重ねてきた「きびなごペースト」を使用した新商品を開発し、現在パッケージを検討中。ペーストを使用したソース開発にも着手。
<p>36 幡多地域における滞在型・体験型観光の推進</p> <p>《幡多地域全域》</p> <p>幡多地域におけるコーディネート組織として、質の高い体験プログラムづくりや人材育成、民泊など受入体制の充実強化、それらを活用した周遊ルートなど商品造成、販売誘致促進を図り幡多地域での滞在型・体験型観光の推進を目指す。</p> <p>【(一社)幡多広域観光協議会】</p>	<p>○法人化及び旅行業取得、従来の教育旅行に加え一般客もターゲットにした新たな需要、商品の掘り起こしや磨き上げ、また目指すべきビジョン・戦略づくり、インストラクター等人材育成、積極的な誘客活動等、観光地域づくりのコアとなる組織づくりを図る。</p> <p>◆教育旅行受け入れ増の取り組み — 一般旅行商品造成・販売</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・理事会・社員総会の開催(理事会5/11・5/21・5/29 社員総会5/29) ・エリアキャンペーン(7～9月)において、「はた旅フォトコンテスト」実施決定、チラシ配布5000部
<p>37 竜串観光再発見事業</p> <p>《土佐清水市》</p> <p>地域産業の連携と地域が協働することで、観光客に地域をまるごと知ってもらい、地域住民と交流する施設や小動物等とふれ合える施設等整備の在り方、NPO竜串観光振興会が中心となって行っているサンゴ保全や観光メニューづくりなどのソフト事業について、地域住民や観光関連団体、市が連携しながら検討し、竜串観光の振興を図る。</p> <p>【土佐清水市、土佐清水市観光協会、NPO竜串観光振興会、竜串地区、竜串自然再生協議会】</p>	<p>○地元NPO竜串観光振興会を中心に、新たな観光メニューづくりや竜串地域の施設再検証、清掃活動、サンゴ保全、イベント開催、地元小学校の学習活動支援等、様々な活動に取り組んでいる。(～23)</p> <p>○ステップアップ事業を活用し、竜串の観光資源の認知度と関心度のギャップ調査を実施。調査結果を基に、産業振興総合補助金を活用し、情報発信、認知度向上を図っている(今後の戦略展開に活かす予定)。(H22～23)</p> <p>◆観光客の減少。 ◆観光消費額の減少。 ◆人材不足。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO竜串観光振興会 海のギャラリー指定管理者21ヶ月継続。 ・キャンドルづくりや見残し観光など、昨(H23)年度同様に実施中。
<p>38 土佐清水まるごと戦略観光展開事業</p> <p>《土佐清水市》</p> <p>観光産業を地域の戦略的産業と位置づけ、農業・漁業・商業等と連動した地域まるごと観光を推進するため、食・体・商を集約した海の交流拠点施設として「海の駅」を核に、観光ニーズに即応できるワンストップサービスを推進する。</p> <p>【(社)土佐清水市観光協会、地域活動団体、土佐清水市】</p>	<p>○土佐清水市「海の駅」をジョン万次郎資料館として位置付け、土佐清水市観光協会の事務局を配置、「海の元気まつり」など様々なイベントの実施や体験型観光の受入窓口として観光の中核的な存在に。今後も、イベントの開催、観光PR・誘致活動の継続、個人観光客へのきめ細かな対応、体験型修学旅行の受入など、市や観光協会、関係団体が連携して取り組む。</p> <p>◆地域の特性、資源を活かした体験型プログラムの造成。 誘致・プロモーション活動の推進。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・認証商品受発注システムによる売上目標(年間50万円以上)設定。 ・ジョン万海の元気まつり開催(5/3～5/4) ・香港国際旅行展での観光PR活動実施:(6/12～6/15)

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる、プラスの変化を示すこと>	指標・目標
・チアアップ！参加にて1件商談成立		【指標】新規雇用 【目標(H27)】 5名
・教育旅行受入(4月/中学校1校13名 5月/中学校3校742名・高校1校150名) ・新たな体験メニューとして、荒天時にも対応可能な公設市場体験の受入開始(5/30:55人、6/7:17人)		【指標】 ・教育旅行受入数(H22:3,074人) ・一般旅行受入数(H22:59人) 【目標H27】 ・教育旅行受入数 4,000人 ・一般旅行受入数 30,000人
・観光入込客数:前年同期比983人増 [6月末累計]24,610人(同前年23,627人) ・海のキャリアー体験メニュー体験者数:57人増 [6月末累計]86人(同前年29人)	・奇岩PRによる観光客増:約230人	【指標】入込客数 (H22:12万人) 【目標(H27)】 12.5万人
・GWイベント「ジョン万海の元気まつり」開催(5/3~5/4):入場者数約4,300人		【指標】宿泊者数・入込客数 (H22:86.9万人) 【目標(H27)】 82万人

＜幡多地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果：○ 課題：◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>39 四万十市の地域資源を活かした通年・滞在型観光の推進</p> <p>《四万十市》</p> <p>四万十市内での滞在期間を延ばし、宿泊を促す「通過型観光からの脱却」と閑散期(秋・冬)にも観光客に訪れていただく通年型観光へ向けた取り組み及び観光客の情報収集などの拠点となる施設整備により、宿泊型観光の増加を図る。</p> <p>【四万十市観光振興連絡会議、奥四万十楽しまんとPT、四万十市】</p>	<p>○通過型観光からの脱却と閑散期(秋・冬)における集客増のため、秋に特化した宿泊を促すイベントを開催するにあたり、これまで実施できていなかった飲食店組合及び旅館組合との連携を図ることができ、官民一体となった観光客受入体制の足場を築くことができた。</p> <p>「四万十川周遊川バス」、「しまんと・あしずり号」運行による二次交通補強</p> <p>◆イベントを主とした、宿泊観光客の増加を図ることは、一時的(例：土日祝限定)であり、また受入側の負担増となってしまう。継続的に負担増とならない、通年・滞在型観光に向けた観光商品(体験メニュー)の開発や受入システムづくり、人材育成必要</p> <p>エリアへの主要移動手段である自動車を使用した観光客への核となる拠点整備</p>	<p>・緊急雇用(4/1～)</p> <p>・花をテーマとしたイベントの実施(四万十川花絵巻)</p> <p>・旅館組合と地域を繋ぐ事業の支援(モニターツアー受入)</p> <p>・産振アドバイザー活用(6/14～)</p>
<p>40 竜ヶ浜自然体験・環境教育交流推進事業</p> <p>《大月町》</p> <p>大月町柏島竜ヶ浜に、その植生(県内で2箇所しかない湿地帯)を活かした、自然体験及び環境教育型の滞在交流拠点施設を整備して、交流人口の拡大と地域の経済の活性化を図る。</p> <p>【大月町】</p>	<p>○基本計画策定(H22)</p> <p>○施設整備(H23)</p> <p>○H22ステップアップ事業を活用し基本計画を作成、H23産業振興総合補助を導入し、キャンプ場(管理棟・炊事棟・駐車場・テントサイト等)の整備及び体験メニューづくりを実施した。本格稼働となるH24以降、大月町の新たな交流拠点として活用予定。</p> <p>◆管理運営を委託する観光協会の収益体制の確立</p> <p>◆施設へ海水浴客等を誘導する仕組みづくり</p> <p>◆県内外へのPR</p>	<p>・高知県産業振興推進ふるさと雇用事業(事業費5,630,000円)</p>
<p>41 黒潮町の地域資源を活かした体験型観光の推進</p> <p>《黒潮町》</p> <p>黒潮町の豊かな自然環境を生かした体験型観光を推進することで、都市部との交流人口の拡大を図ると共に地域の活性化につなげていく。</p> <p>【NPO砂浜美術館、黒潮町】</p>	<p>○体験プログラムの開発、ブラッシュアップによる旅行商品化や住民対象のモニターツアー実施により地域に受入に対する気運の向上が現れた。砂浜美術館Tシャツアート展の広がりやクジラの生態調査など自然環境を生かした取り組みが強化された。他、カツオ文化の活用、農林漁家民宿でのおもてなしなど県内でも有数の体験交流地域として認知されつつある。</p> <p>◆インストラクターの養成及び資質向上</p> <p>体験プログラム指導内容のブラッシュアップ</p>	<p>・4/10高知県公立大学法人高知短期大学にて「黒潮町のアートを生かした地域振興」と題して講義実施</p> <p>・5/2～5/6 砂浜美術館Tシャツアート展開催</p> <p>・5/4～5/5 作品見つけの旅・春モニターツアー実施</p> <p>・6/12RKC調理師学校 さしすせそ出前授業実施</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる、プラスの変化を示すこと>	指標・目標
<ul style="list-style-type: none"> ・雇用:4事業合計16名 ・四万十花絵巻参加者(6/10現在) 来訪者26,000人、宴参加者500人 ・モニターツアー受入:27名(5月末現在) 		<p>【指標】 観光商品開発数 (H22:63体験)</p> <p>【目標H27】 100体験</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと雇用事業で1名を継続雇用(観光協会) ・4/28竜ヶ浜キャンプ場オープン ・修学旅行受入(4/18:8人、5/16:40人、5/22:37人) ・竜ヶ浜のHP立ち上げ(4/17) ・竜ヶ浜キャンプ場ポスター、チラシ配布(とさてらす、道の駅等にポスター13枚、リーフレット400部、体験ハン7800部配布) ・竜ヶ浜キャンプ場において、体験モニターを実施(5/26、27計16人) ・6/9第3回大月水中フォトコンイベント(作品数190点) 	<p>・4/28～6/20 27組 159名の利用者</p>	<p>【指標】利用者数</p> <p>【目標(H27)】 8,700人</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・5/2～5/6 砂浜美術館Tシャツアート展開催(参加者14,260人) ・5/4～5/5 作品見つけの旅・春モニターツアー(参加者9人) ・6/21 すなびてんぼ開設 ・6/2～6/3第17回全日本女子ユース(U-15)サッカー選手権大会 四国大会(8チーム、189人) 		<p>【指標】 ・入込客数 (H22:57.8万人)</p> <p>【目標H27】 60万人</p>